

VOC貯蔵小委員会資料

『天然ガス鉱業における貯蔵施設』

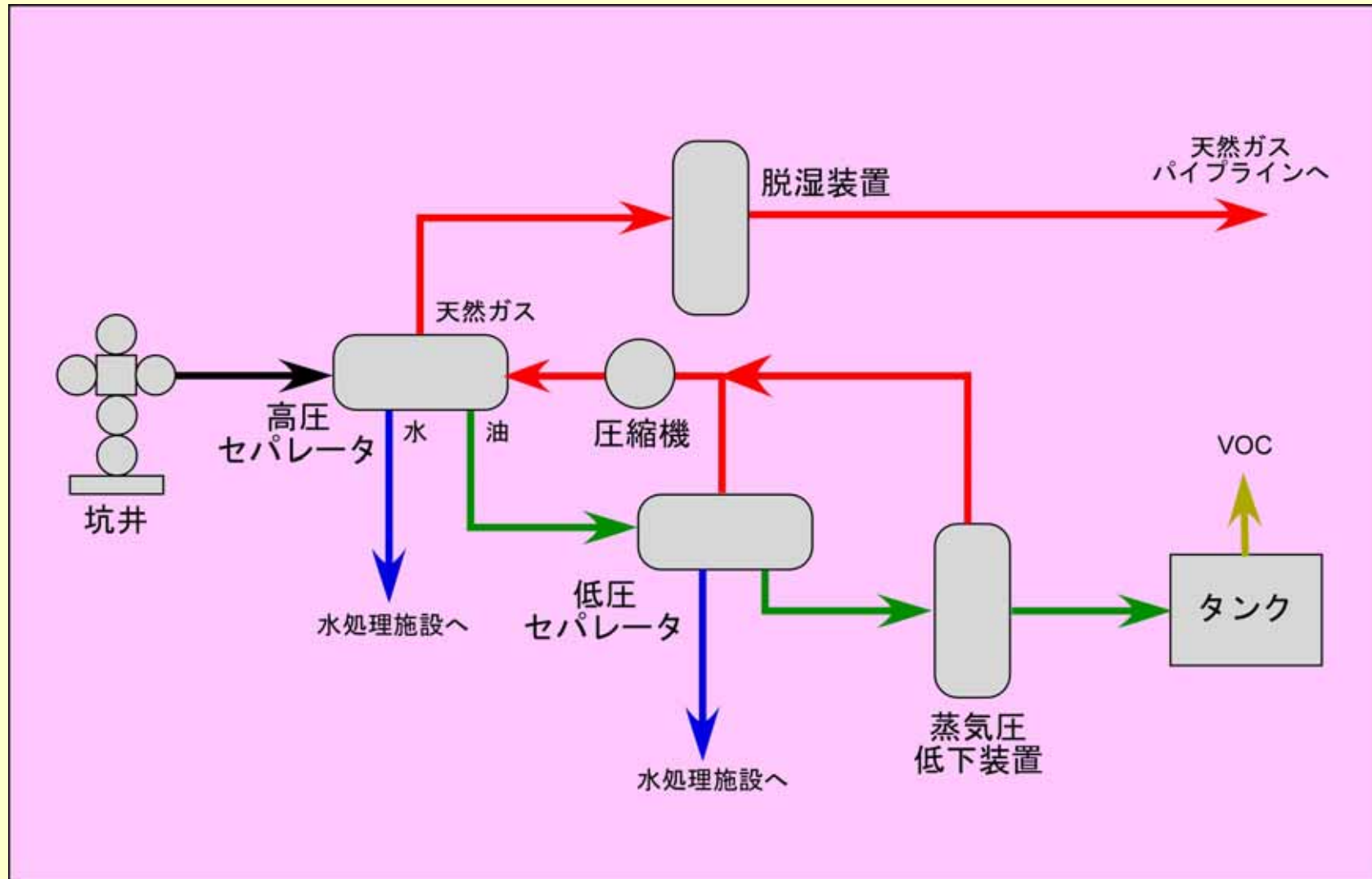
2004年9月28日

天然ガス鉱業会

天然ガス鉱業会の概要

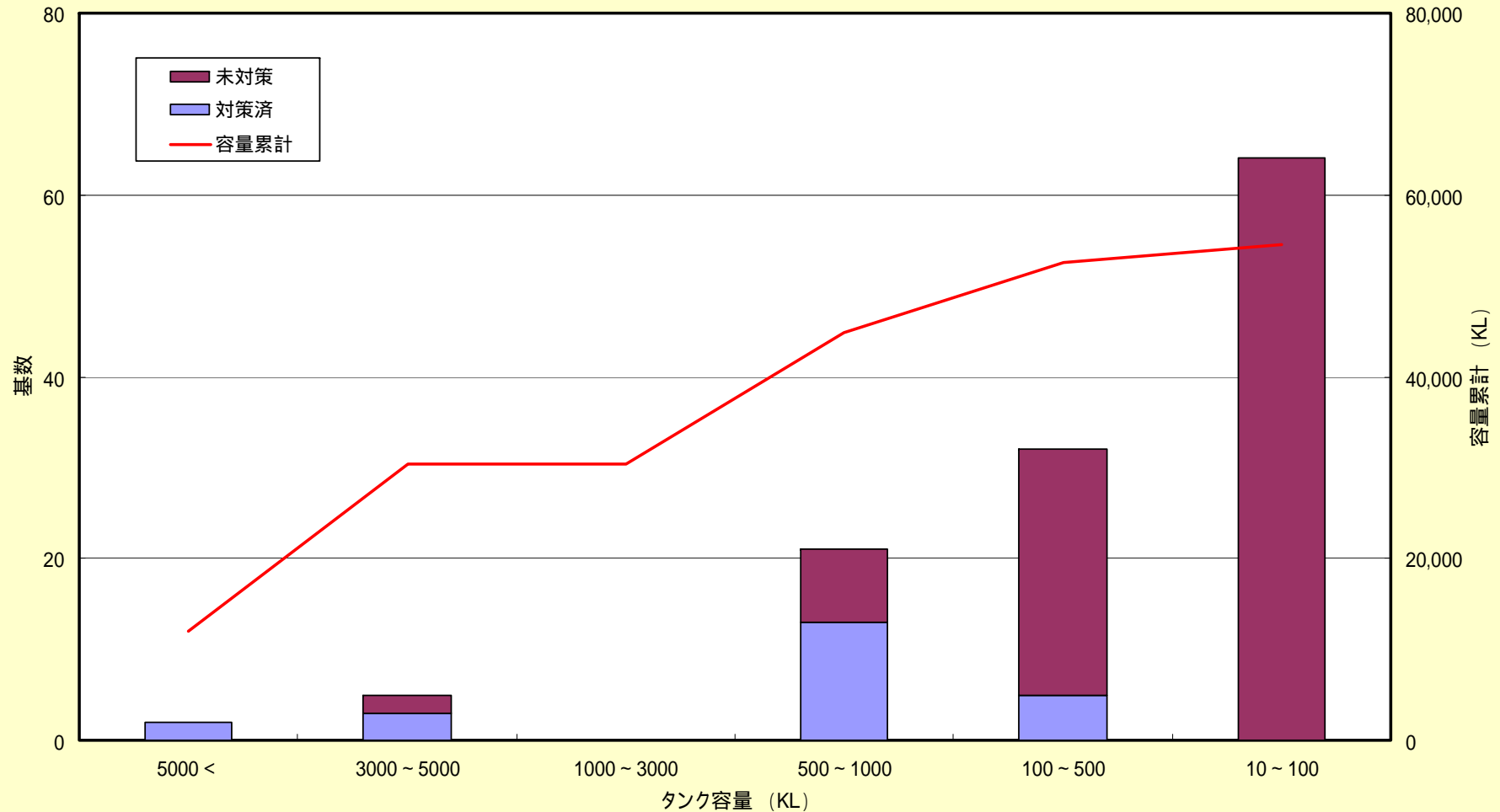
- 設 立: 昭和32年
- 会員数: 16社 (平成16年4月現在)
 - 天然ガス及び原油の開発に関連する事業者で組織しており、国内天然ガス生産量の99.7%、原油生産量の99.9%をカバー (平成14年度実績)
 - 国内天然ガス生産量 2,752,394千m³
 - 国内原油生産量 755,889KL
- VOCに関連する貯蔵施設は原油タンク
- 帝国石油・石油資源開発及び子会社で、国内原油生産量の98.7%をカバー
 - 以下のデータは、関連子会社を含む帝国石油・石油資源開発で記載

一般的な油ガス田でのプロセス



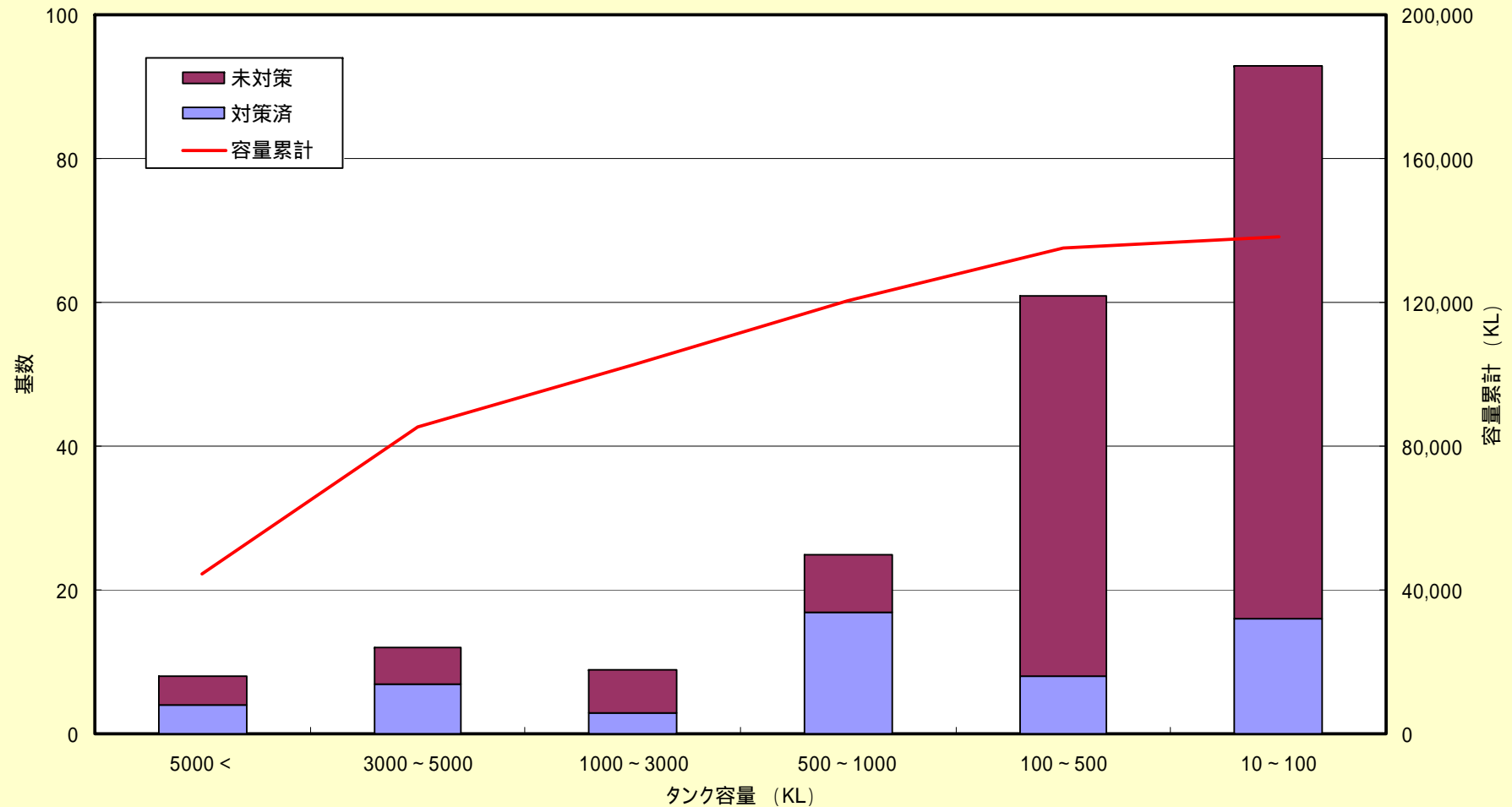
天然ガス鉱業のタンク

注：対策済は平成17年8月完成までを含む



参考：関連事業を含む場合

注：関連会社での下流部門を含む



天然ガス鉱業の特徴と対策

- 国内の場合、油ガス田の規模が小さく分散して存在
 - 天然ガス鉱業でのタンク容量合計は54,457KL
 - 下流部門子会社を含む場合には138,116KL
 - 1,000KL以下といった小容量タンクが多数存在
- 一部の油ガス田を除いて、多くは老朽油ガス田
 - 今後長期的に生産を継続できない油ガス田が多く、タンクへの追加投資が困難
 - これら老朽油ガス田では、生産量減退によってタンク受払量が減少し、VOC発生量も減少
- 大規模な油ガス田では自主的に削減策を実施
 - 新設タンクはVOC対策済
 - 既存タンクには改造による対策

平成12年4月以降の自主的取組

- VOC対策済の新規タンク建造 (13,480KL)
- 平成12年4月末対策タンクの29% (容量ベース) に対策を実施 (一部予定を含む)
 - 平成12年タンク容量合計 42,517KL
 - 平成12年未対策タンク容量 30,667KL
 - 既存タンクへの対策 8,989KL
 - － インナールーフ設置 3,582KL
 - － ベーパーガス吸引 3,867KL
 - － 固定屋根タンク廃止 1,540KL
 - 平成17年8月タンク容量合計 (予定) 54,457KL
 - 平成17年8月末対策タンク容量 (予定) 21,678KL

要望

■ 裾きりは5,000KL以上を希望

- PRTRを契機にして、多量にVOCを排出しているタンクには対策を順次実施し、平成17年8月までに平成12年比で既に29% (容量ベース)を削減
- 関連下流部門を入れると、5,000KL以上の規制によって平成12年比で65% (容量ベース)の削減予定

■ 既設タンクに対する長期の猶予期間の設定

- 他業種と異なり、タンクの残存使用期間が耐用年数ではなく油ガス田残存埋蔵量によって決まるため、既設のタンクに対しては、例えば10年のような猶予期間の設定を希望

End